

クラス番号	347	担当教員名	斉藤 雅茂
テーマ	高齢期の健康・幸福（Well-being）にむけた諸課題の見える化と社会福祉調査		
著書・論文	<著書> ● 斉藤雅茂 (2018)『高齢期の社会的孤立と地域福祉；計量的アプローチによる測定・評価・予防策』明石書店 ※日本社会福祉学会学術賞受賞 <論文> ● 斉藤雅茂ほか (2021)「要支援・要介護リスク評価尺度得点によるその後の累積介護費用の相違；6年間の介護保険レセプトデータの追跡調査より」『日本公衆衛生雑誌』（早期公開中） ● Saito M. et al. (2021) Differences in cumulative long-term care costs by community activities and employment: A prospective follow-up study of older Japanese adults. Int. J. Environ. Res. Public Health, 18(10): 5414 ● Saito M et al. (2020) Cross-national comparison of social isolation and all-cause mortality among older adults: A 10-year follow-up study in England and Japan. Geriatrics and Gerontology International, [epub ahead of print]		
研究課題等			

## ゼミナール概要

キーワード：社会的孤立・孤立死、認知症、介護保険、健康格差、8050問題、ソーシャルキャピタル、地域づくり（専門領域）社会福祉学、社会老年学、公衆衛生学、社会疫学、高齢者福祉、地域福祉、社会福祉調査

目的、内容、方法等：

私たちもいつか高齢者になります。高齢期の健康・幸せ（Well-being）を考えることは私たちの未来を考えることでもあります。この演習では、主に高齢期の諸問題に焦点をあて、既存の調査研究の動向を共有しながら、皆さんの関心を深めていきます。卒業論文のテーマは、高齢者の健康や幸福、生活課題に関するものの方が専門的な指導が行えますが、皆さん自身の「問い」や「強み」を大切にしていきたいとも思っています。定量的な調査、データ解析・統計解析に挑戦したいという方には個別にサポートしますのでご安心下さい。最終的に全員が「学士号」として恥ずかしくない水準の卒業論文になるよう指導しています。3年前期には卒業論文に関連したレポートを提出してもらい、添削および反省会を行っています。春休みには卒業研究の中間報告会を行っています（昨年はZoom合宿でしたが）。フィールド・ワークやゲスト講師についてはゼミ・メンバーの希望に合わせて調整しています。その他、例年、国家試験受験者（合格希望者）向けに自主学習会を開催しています。

授業計画：

- － 3年前期には、改めて現在の高齢者福祉および介護保険に関する基礎的な統計や諸制度をおさえていきます。そのうえで、学術研究とは何なのか、どのように進めたらよいかを改めて確認します。各自の関心に即した学術論文の蒐集方法を演習し、輪読を通して学術論文のスタイルと読み方を習得します。それらを踏まえて、レポートおよび卒業研究計画書にまとめます。
- － 3年後期には、卒業論文で取り組む課題（問い）を焦点化し、個別指導とグループワークを通じて、卒業論文の執筆構想に関する議論を重ねていきます。なお、この時期は実習とも重なるため、参加メンバーの希望に合わせて適宜演習内容を調整します（PCのスキルアップ演習や統計解析入門、調査票作成体験など）。
- － 4年次は主に執筆中の卒業論文をピアレビューし、お互いに課題を確認していきます。就職活動や公務員試験など他の予定をあらかじめ予測して、計画的に卒論を終えるように指導しています。たとえば、国家試験を控えている人には夏休みまでに卒業論文の完成を目指しています（あとは個々の努力次第です）。

## 担当教員からのメッセージ



卒業研究を通じて、自ら問いを立てて探求して何かを発見し、発信することの「楽しさ」を味わってもらえたら嬉しいです。3・4年ゼミでは個別性が高くなってきますので、できる限り、皆さん一人一人のニーズに合わせて授業を進めていきたいと思っています。皆さんもぜひ自身の「強み」を活かして様々なことにチャレンジしてください。「ラク」ではないと思いますが、「楽しい」時間にして、一緒に実りの多いゼミにしていきたいと思います。